



日本海藻協会ニュース

2009年4月15日

・協会事務局から

1. 親睦交流会にご参加ください

2009年度の親睦交流会は、伊豆諸島の海藻資源（てんぐさ・トサカノリ、その他）の視察を主な目的として5月23 - 25日に神津島・式根島視察を計画しました。多数の会員の皆様のご参加をお願いします。概略下記の通りですが、乗船の予約が必要ですので4月20日までに参加希望を事務局あてご連絡ください。（正会員には1社当たり10,000円の参加補助をする予定です。）

5月23日(土) 22:00 東京発(船中泊)

5月24日(日) 10:00 神津島着、13:00 神津島発、13:30 式根島着(1泊)

5月25日(月) 14:45 式根島発、18:00 東京着

(乗船代 20,500円 + 宿泊代 15,000円程度の予定)

2. 秋季藻類シンポジウムの予定

2009年秋季藻類シンポジウムは10月9日(金)に学士会館(東京・神田)で開催の予定です。

3. 年会費納入のお願い

本協会2009年度(2009.1.1. - 12.31.)の年会費(正会員30,000円、準会員10,000円)を未納の会員は至急納入してください。

4. 会報「海藻資源」の原稿募集

本協会の会報「海藻資源」の原稿を募集します。No.20は6月に発行予定ですので、原稿は5月10日までに事務局宛にお送りください。

・海藻関連ニュース

1. 海の森づくり第3回こんぶサミット(日本海藻協会後援)

NPO海の森づくり推進協会主催の海の森づくり第3回こんぶサミット「豊かな海との共生をめざして：海の森づくり こんぶサミットin 壱岐・(青島)・函館・東京・青森・宇和島」が2009年4月～2010年3月に開催されます。詳細は海の森づくり推進協会の横浜事務局 (Fax: 045-922-3448, email: shujiro.fujino@mbe.nifty.com) に問い合わせるか、ホームページ <http://www.kaichurinn.com> をご覧ください。

壱岐での開催は4月23 - 24日、中国青島での開催は5月13 - 15日、東京での開催は9月26 - 27日が予定されています。これに合わせて次のようなオプショナルツアー（自己負担）が企画されています。

海の森づくりモデル地区ツアー（4月23 - 24日、1泊2日、芦辺町宿泊）

訪問先：長崎県壱岐東部漁業協同組合

行 事：海の森づくりセミナー、モデル現場見学、海の森尽くし

見 所：離島の海の森づくり運動のモデル地区、「蘇る海女の里」

中国青島ツアー（5月13 - 15日、2泊3日、青島宿泊）

訪問先：青島海洋大学水産増養殖研究所、国家海洋局第一海洋研究所、

中国水産科学研究院黄海水産研究所、養殖現場、加工場、市場他

行 事：海の森づくりセミナー、施設案内、現場見学

見 所：中国におけるマコンブ養殖生産・研究拠点で外来種マコンブ養殖の功罪に関する全てを問い、中国に学ぶ

参加希望者は「海の森づくり推進協会 松田恵明代表理事」(Tel/Fax 018-833-7734) 宛にご連絡ください。

2. 第12回マリンバイオテクノロジー学会大会（日本海藻協会協賛）

第12回マリンバイオテクノロジー学会大会が2009年5月30日（土）～31日（日）に早稲田大学大久保キャンパス63号館（東京都新宿区）で開催されます。詳細は大会ホームページ<http://www.waseda.jp/assoc-marine/> または学会ホームページ<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsmb/index.html> をご覧ください。

3. 第9回国際藻類学会議

第9回国際藻類学会議（The 9th International Phycological Congress, IPC9）が2009年8月2 - 8日にオリンピック記念青少年総合センター（東京代々木）で開催されます。詳細は<http://www.ec-japan.jp/ipc9/index.html> をご覧下さい。

4. 第 20 回国際海藻シンポジウム

国際海藻協会 (International Seaweed Association, ISA) 主催の第 20 回国際海藻シンポジウム (The XX International Seaweed Symposium, XX-ISS) が 2010 年 2 月 21 - 26 日にメキシコのエンセナダ (Ensenada, Baja California) で開催されます。会場は Marine Science Convention Center の予定です。参加登録並びにアブストラクト送付の期限は 2009 年 9 月 20 日です。詳細は <http://www.xxseaweedsymposium.org> をご覧ください。

・カレンダー

- 2009.4.23-24. 海の森づくりセミナー (長崎県 壱岐)
- 2009.5.13-15. 海の森づくりセミナー (中国 青島)
- 2009.5.23-25. 親睦交流会 (伊豆 神津島・式根島)
- 2009.9.26-27. 海の森づくりシンポジウム (東京 東京海洋大学)
- 2009.5.30-31. 第 12 回マリンバイオテクノロジー学会大会 (東京 早稲田大学 大久保キャンパス) [Nos.9 & 10]
- 2009.8.2-8. 第 9 回国際藻類学会議 (東京 オリンピック記念青少年総合センター) [Nos.9 & 10]
- 2009.10.9. 2009 年秋季藻類シンポジウム (東京 学士会館)
- 2010.2.21-26. 第 20 回国際海藻シンポジウム (メキシコ、エンセナダ)

・会員会社の新製品等の紹介

1. 新刊図書案内

- 谷口和也・吾妻行雄・嵯峨直恆 (編) 磯焼けの科学と修復技術 (水産学シリーズ 160). 恒星社厚生閣 (2008). A 5 判・136 頁・定価 2,730 円 .
- 小路 淳 (著) 藻場とさかな (ベルソープックシリーズ 032). 成山堂 (2009). 四六判・179 頁・定価 1,680 円 .
- M.A. Borowitzka, A.T. Critchley, S. Kraan, A. Peters, K.Sjøtun, M. Notoya (eds.) Nineteenth International Seaweed Symposium (Proceedings of the 19th International Seaweed Symposium, held in Kobe, Japan, 26-31 March 2007). Springer (2008). 549pp.

2. マイクロアルジェコーポレーション(株) が「髪菜」栽培に着手

本協会会員のマイクロアルジェコーポレーション(株) は陸生藻である藍藻 (シアノバクテリア) の「髪菜」(ファーツアイ、 *Nostoc flagelliforme*) の栽培を宮古島の施設で開始することになった。添付の中日新聞記事を参照ください。

・海藻 Q & A

Q15 - 「磯焼け」って何？

A - 海の沿岸部に生育する海藻の群落消失して、海藻群落に依存している魚介類の成長に影響を及ぼし、漁業生産が著しく減少することを「磯焼け」と呼んでいます。狭義には大型褐藻のアラメ、カジメ、サガラメ、コンブ類、ホンダワラ類（これら大型海藻の群落は「海中林」と呼ばれる）や紅藻のテングサ類などの海藻群落の極端な減少や消失を指しますが、広義にはこれら海藻群落（魚介類の餌、産卵・保育・生息の場）の減少・消失が魚介類生産の減少を招くことまでを含みます。「磯焼け」はもともとは静岡県伊豆東海岸地方の漁民が使っていた言葉で、海藻学者の遠藤吉三郎(1911)がその著書「海産植物学」の中で伊豆東海岸のテングサ漁場の荒廃について紹介したことから広く使われるようになりました。大型海藻が消失したあとにサンゴモ（無節石灰藻）が海底を覆い、海底が白っぽく見えるようになることがあります、必ずしもサンゴモで海底が白っぽく見えることだけを指すものではありません。

海藻群落消失の原因としては、いろんなことが考えられますが、海水温の上昇、動物による食害（摂食圧）、海水の汚濁、淡水流入による塩分低下、などが主なものと考えられています。古くから知られていたのは、伊豆半島の南東部で黒潮流軸の接岸に伴う水温上昇の影響を受けてアラメ・カジメやテングサ類の群落消失し、その影響でアワビなどの漁獲が著しく低下する現象で、上に述べたように「磯焼け」という呼び名もここに起源があります。ウニ類の食害によりコンブ類やアラメ・カジメの群落消失することもかなり以前から知られていました。また、近年では海水温上昇のためと考えられていますが、南方系の魚類がこれまでより北上する（あるいは低水温期でも留まる）ようになり、大型海藻に大きな食害を及ぼすため「磯焼け」が生じると判断されるケースが九州沿岸や静岡県沿岸でも知られるようになってきました。このような植食動物を除去したり、海藻に接近できないようにしたりして、「磯焼け」を防ぐ実験的な研究も行われています。

これまでのQ & A

Q1 - 「海藻」と「海草」は同じですか。（No.2 に掲載）

Q2 - ノリの「色落ち」って何ですか。（No.2 に掲載）

Q3 - 海藻が多様な色彩を呈するのはなぜか？（No.3 に掲載）

Q4 - コンブやワカメは湯通しするとなぜ緑色になるのか？ 焼き海苔はなぜ緑色か（No.3

に掲載)

- Q5 - 海苔が湿気ると赤紫色になるのはなぜか？(No.3 に掲載)
- Q6 - テングサという種名の海藻はないのですか？(No.4 に掲載)
- Q7 - 「うみぶどう」は海藻の名前ですか？(No.5 に掲載)
- Q8 - 「キラー海藻」って何？(No.6 に掲載)
- Q9 - 日本の海苔は輸出されていますか？(No.6 に掲載)
- Q10 - 「髪菜(はっさい)」は海藻ですか？(No.7 に掲載)
- Q11 - 中国で栽培(養殖)されているノリは日本のノリと同じですか？(No.8 に掲載)
- Q12 - 「岩のり」と「青のり」は違うものですか？(No.9 に掲載)
- Q13 - 「心太」と書いて「トコロテン」と読むのはなぜですか？(No.10 に掲載)
- Q14 - 「鰐浦こんぶ」はコンブですか？(No.11 に掲載)
- Q15 - 日本産海苔の輸出状況はどのようになっていますか？(No.12 に掲載)

この協会ニュースは、主として会員の皆様からの情報・資料に基づいて、月1回(毎月15日付で)発行されます。情報・資料を下記宛にご提供下さい。

〒101-0031 東京都千代田区東神田 2-1-11 第一坂本ビル 7F

マリン・サイエンス株式会社 内

日本海藻協会事務局

編集者：有賀祐勝 (arugay@mx4.ttcn.ne.jp)